

[2025年3月18日開催]

<サロン事務局>

第5回革新的製品創出サロン（開催後記）

「2024年度第5回サロンを2025年3月18日に開催。サロン通年のテーマである「脱炭素」テーマで、講演1件（SCOPE1 & 2の算定とSCMデザイン）、その後「わが社の一念（一年）」のテーマで、企業会員9社様より情報提供いただき、最後に会場を移して講師を囲む懇親会を開催し、予定通りに閉会した。

★講演「SCOPE1 & 2を組み込んだサプライチェーンマネジメント・デザインで勝ち抜く

講師:名古屋大学大学院 化学システム工学専攻 准教授 小林 敬幸 氏

(事務局注)

2021年以降、当サロンでは「脱炭素」を重点テーマとして取り上げて来ているが、最近になって欧州では2035年に予定されていた全ての新車販売をCO2排出ゼロ車とする方針が変更され、一部内燃機関の容認、欧州EV補助金打ち切りなど、身勝手な方針変更が表面化している。そのような状況を鑑み中部地方の製造業はどう対処すべきかについて、名古屋大学小林 敬幸 准教授より、SCOPE算定のおさらいに加え、それをSCM経営に取り込み成功した愛知県内の企業事例を紹介いただいた。

・欧州CO2規制の概要とEU自動車産業の競争力低下

2021年基準より15%厳しい企業平均燃費(CAFE)を設定したが、クリアしたのはテスラとボルボのみ。
自動車生産コスト：中国より30%高、BEV販売価格は内燃機関車より92%高（逆に中国ではBEVが8%安）
EV生産段階のCO2排出量は内燃機関車より大、EVは残存価格が安く、保険料が高い課題がある。

・サプライチェーンCO2排出量の算定の必要性

サプライチェーン排出量=Scope1排出量:自社での燃料使用や工業プロセスによる直接排出

(+)Scope2排出量:自社が購入した電気・熱の使用に伴う間接排出 (+)Scope3排出量:下図参照



上記CO2排出量の算定は遅かれ早かれ、客先や投資家から必ず要求されるので対応するしかない！

(算定による副次効果として企業価値向上はあるが、中小にとって実利メリットは少ない)

- ・算定の具体的事例として、愛知県内のS社及びK社のご紹介あり。乾燥機や産廃を取り扱う企業に、小林先生のご指導で算定ツールの提供から原単位の分析までを行い、お墨付きの獲得に加え省エネ化まで達成した。

★情報提供「わが社の一年(一念)発表コーナー」

発表:大矢伝動精機 大矢 顕氏、三栄ポリウレタン 三浦 洋臣氏、鈴木化学工業所 小幡 和史氏
TOPPAN エッジ 平澤 朗氏、TTDC 鍛塚 純氏、ナゴヤホカンファシリティーズ 三口 大登氏
マルワイ矢野 矢野 仁氏、宮崎エンジニアリング 犬伏 邦夫氏、名南機械製作所 小林 幸雄氏
以上、会員企業の皆様にはお礼申し上げます。

★懇親会(ネットワーキング)

- ・最後に太閤本店伏見店に会場を移し、講師の小林先生を囲みネットワーキング懇親会を開催し、本年度最後の革新的製品創出サロンを締めくくった。(以上)